

星空を観光資源にすべく

ツアーガイドを育成

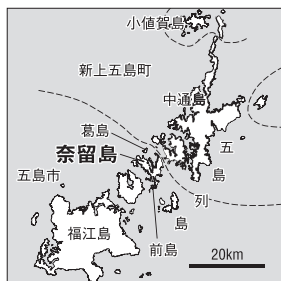
特定非営利活動法人DONDON奈留 理事長 大久保憲二



DONDON広場での星空写真の撮り方講座の実技指導。

団体名 | 特定非営利活動法人DONDON奈留

事業名 | 奈留島の魅力再発見
星空ツアーガイド育成事業



◎世界文化遺産、ジオパークの奈留島

奈留島は、五島列島のほぼ中央に位置する。一八世紀末に大村藩の^{そとめ}外海地方から潜伏キリシタンが新天地を求めて移住した歴史から、教会をはじめとする歴史文化的遺産が所在する。なかでも江上地区は、平成三〇年に世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産「奈留島の江上集落」として登録された。また、令和四年には水晶岳ほか島内数カ所の五島市指定天然記念物が「五島列島ジオパーク」のジオサイトに登録された。

「特定非営利活動法人DONDON奈留」は、五島に來訪する方々に対し、豊かな自然を活用した体験型観光などを通じて交流を図りながら、五島の良さを知ってもらい、併せて五島の経済の活性化と新しい経済活動の創出と支援を行ない、広く公益に貢献することを目的に平成一七年に設立された。

◎滞在型観光の醸成に向けて

当団体は令和三年に五島市の委託業務で「五島市奈留島世界遺産

ガイドンスエンター」を運営することとなり、江上天主堂ボランティアガイド、ジオパークボランティアガイドなどガイド事業に注力することになった。その中で気づいたのは、来島者の多くが宿泊することなく、三〜六時間間の滞在であること、つまり江上天主堂など島の一部を観光したら島を離れていることであった。

遠方から来島されているのにもかかわらず、短時間で島を離れている現状から、島の魅力を伝えるための手立てを皆で考え、星空ツアーガイド事業に取り組むことを決めた。また、民宿を営むメンバーからは、天気の良い夜に宿泊客を海岸の景勝地・千畳敷に連れて行くとお客さんが星空がすばらしいと感動しているという話を聞き、改めて「これしかない」と思ったのも要因だ。

そこで、島内で星空ガイドを養成するため「離島人材育成基金」を活用して、島内講習会や先進地視察、一般向け星空ツアーを実施した。

◎ 星空案内の資格を取得

本事業が始まる前に、団体のメンバー二名が、「特定非営利活動法人星のソムリエ機構」が実施する星空案内人認定講座を受け、星空案内人の資格を取得することを目指した。講座主催は星の文化館（一般財団法人星のふ

るさと）で、令和七年二月と三月に各八講座、延べ一六時間以上に及ぶ講義があり、各講座の終了後にレポート提出が課されるハードな内容だったが、無事に資格を取得することができた。

四月から、資格を取得したメンバーが講師役となり、団体内から希望者を募り、令和八年一月までに星空ツアーガイド講習会六回と視察研修一回を実施した。

講習会では、望遠鏡の仕組み（原理）を説明した後、望遠鏡を組み立て、実際に望遠鏡と双眼鏡を使って星を探す練習をした。併せて、星座や星（恒星・惑星）の基礎と、星座早見盤の使い方などを解説した。

四回目の講習会では、星景写真家の北山輝泰先生をお招きし、望遠鏡操作の指導を受けた。北山先生は以前、天体望遠鏡メーカー「ビクセン」に勤められていた方で、天体



星空ツアーガイド講習会で星座早見盤の使い方を練習。

を望遠鏡の視界に入れる「導入」の仕方などを丁寧に指導していただいた。

視察研修は、九月に福岡県八女市星野村にある「星の文化館」で行なった。プラネタリウムでの季節の星空案内や星の文化館・天文指導員による大型望遠鏡での星空案内を体験し、星空に対する理解を深めた。

◎星景写真の撮り方講座を実施

八月には、再び北山先生を講師に迎え、一般向けの「星景写真の撮り方講座」を開催した。SNSやポスター・チラシなどで参加者を募り、島内外から二四名の参加があった。設定した「スマホで簡単に撮れる星景写真」のテーマが身近に感じられたからか、参加者の年齢層も幅広かった。講座は昼の座学と夜の実技指導の二部構成で、合計四時間以上にわたった。全国で星景写真の撮影講座を行なう北山先生の講義内容は、大変わかりやすいものであった。また、参加者が各々SNSから自分で撮影した星空を投稿しており、奈留島をPRする新たな可能性を感じた。

◎冬の星空観望会と星空マップ制作

令和八年一月には「笠松宏有記念館」ひつとほグラウンドで冬

の星空観望会を開催した。当日はあいにくの悪天候だったため、会議室を借りて、プロジェクトで冬の星空案内と奈留島星景写真案内を実施した。参加者は島内外から二四名が集まり、プロジェクトでの星空案内だったものの、ある程度の評価を得られた。さらに観望会の最後に外で雲の合間から木星が観測でき、皆喜んだ。当初の計画では、星空観望会は二回実施する予定だったが、準備の時間が確保できず一回になったのは反省点である。また、星空ツアーガイド育成事業の実施に向け、星空マップのパンフレットを作成した。星景写真講座の前に北山先生に奈留島各所で星景を撮影してもらい、その中に依頼し、スムーズな意思疎通により希望通りの良い星空マップができ、地域活性化にも貢献できた。完成したマップは、奈留島全世帯と全宿泊施設、さらに奈留ターミナルビルをはじめ、福江港ターミナル・新上五島町・博多港・長崎港の観光案内所に配布した。

◎星空ツアーのこれから

当団体は設立から二〇年以上の歴史の中で、島の活性化に貢献してきたと自負している。しかし、近年は会員の高齢化が進んで活動がマンネリ化し、新しい事業に取



星景写真家の北山輝泰先生による「スマホで簡単に撮れる星景写真」をテーマにした星空講座。

り組む気力が失われていた。特に、星空ツアーは、福江島、新上五島町、小値賀島ですでに開催されており、きれいな星空が見える奈留島で取り組んでいかなかったのは、ガイド団体としては怠慢

だったとすら思う。

今回、離島人材育成基金助成事業を活用して星空ガイド事業に挑戦し、事業に取り組んでいく中で、団体全体でもう少し新しい事業に挑戦してみようという気概も生まれたいと思う。今後の星空ガイド育成では、島の若い人たちにも声をかけ、当団体が指導役となり、奈留島の星空を観光資源として稼げる星空ガイド組織を育成し、島の滞在型観光の推進に貢献していきたい。

離島人材育成基金助成事業運営委員より

特定非営利活動法人 DONDON 奈留の方々との懇談会の席で、各々がスマートフォンで撮影された星空の写真を見せてもらいました。星空の撮影は難しい、との先入観がありましたが、驚いたことにどなたの写真にも瞬く星座の様子がくっきりと浮かび上がっていました。北山輝泰氏による「星景写真の撮り方講座」の成果と拝察します。

観望会当日は、曇り模様の天気、野外での星空観察は少しの時間しかできませんでした。しかし、代わりに実施された屋内での冬の星座の案内もまた、大変興味深いものでした。こちらにも「星空案内人認定講座」での学びが活かされているように思います。

今後、季節ごとの星空観望会の開催に加え、世界文化遺産「長崎と草地方の潜伏キリシタン関連遺産」を構成する「江上集落」などの文化資源と組み合わせたプログラムの開発、そして若い世代を巻き込んだ活動の展開など、期待するところは大きいです。

私が奈留島に向うのは今回で3回目です。平成30年に本誌の取材で訪れたのが最初となります。その時にお世話になった方々が、わざわざご挨拶に来てくださいました。奈留島の温かい風土を象徴するエピソードとして言わせていただきます。

[運営委員 共立女子大学・順天堂大学兼任講師 土屋 久]



大久保憲二（おおくぼけんじ）
昭和三年奈留島生まれ、親の代から続く家業（博多—五島列島・離島航路奈留島代理店）に従事しながら、平成二年に地域の仲間と共にDONDON奈留の前身である、島おこしグループ（Wotabe Baie）（主に島で結婚式を挙げる若いカップルのプロデュースなどを行なう）を立ち上げて活動する。同一七年の市町村合併を機に、三〇人以上の仲間と共にまちづくりグループ「特定非営利活動法人DONDON奈留」を設立し、同一七年に理事長に就任。

日本離島センターでは、自主的な離島住民活動を支援し、新しい活力ある離島の実現に必要な人材の育成を図ることを目的に、「離島人材育成基金」の運用益による助成事業を実施しています。詳細はHPをご覧ください。

